

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	14-157	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Meta-analysis of six genes (BDNF, DRD1, DRD3, DRD4, GRIN2B and MAOA) involved in neuroplasticity and the risk for alcohol dependence. アルコール依存に対する神経可塑性および危険性に関連する 6 つの遺伝子 (BDNF, DRD1, DRD3, DRD4, GRIN2B and MAOA) のメタアナリシス		
執筆者		
Forero DA, López-León S, Shin HD, Park BL, Kim DJ.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2015, 1(149):259-63. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2015.01.017.		
キーワード		PMID
中毒、アルコール中毒、候補遺伝子、神経遺伝学		25660313
要 旨		
目的：		
<p>アルコールに関する問題は、ヒトにおいて健康に大きな影響を及ぼし、死亡の約 4%を、障害調整生存年数の約 4.5%を説明できるとされている。また、遺伝要因はアルコール依存リスクを説明しうるとされ、最近のメタアナリシスでは、ADH1B、ADH1C、DRD2 および HTR2A 遺伝子変異との関連が報告されている。本研究では、神経伝達と神経可塑性に関連する 6 つの候補遺伝子 BDNF、DRD1、DRD3、DRD4、GRIN2B および MAOA の変異についてメタアナリシスを行った。</p>		
方法：		
<p>6 つの遺伝子に関連する論文の検索を行い、人口統計学および遺伝的データを抽出した。統合オッズ比は、Random-effect モデルを用いて計算した。優性、劣性および対立遺伝子について検討し、人種による層別解析も行った。</p>		
結果：		
<p>論文検索の結果、次の 42 の研究にてメタアナリシスを行った。BDNF-rs6265 (9 研究)、DRD1-rs4532 (4 研究)、DRD3-rs6280 (11 研究)、DRD4-VNTR (7 研究)、GRIN2B-rs1806201 (3 研究)、MAOA-uVNTR (8 研究)。アルコール依存に対する統合オッズ比は 6 つの遺伝子いずれも有意ではなく、人種別の層別解析においても同様に有意な結果は得られなかった。</p>		
結論：		
<p>アルコール依存に関連した遺伝学的なメタアナリシスを行った結果、6 つの候補遺伝子においてアルコール依存と一貫した関連は認めなかった。今後、機能的に関連する新規遺伝子についてのさらなる研究、あるいは、エンドフェノタイプのメタアナリシスを行うことによって、アルコール依存における感受性分子を同定できる可能性があると考えられる。</p>		